

**2011 年度
NPOインターンシップ
事業報告書**

2012 年 3 月 27 日

特定非営利活動法人ボランタリーネイバース

目 次

第1部 事業報告

1. 事業の背景と目的
2. 事業実施の経過と日程
3. 研修実施概要
 - 3-1 ステップ 1 「基礎講座」(NPO基礎講座と団体紹介)
 - 3-2 ステップ 2 「団体見学バスツアー」
 - 3-3 ステップ 3 「NPO 現場体験研修」
 - 3-4 ステップ 4 「体験交流会」
4. まとめ

第2部 資料編

1. 研修資料一式
2. 研修参加者名簿

1. 事業の背景と目的

本 NPO インターンシップ事業は、2008 年度から開始し、今年で4回目にあたります。50 歳以上の方を対象に様々な課題に取り組んでいる NPO を知り、定年後などに NPO 活動に参加し地域で活躍していただくための事業です。

「NPO 基礎講座」や「DECO スクール」、「現場見学バスツアー」などで NPO のことを知っていただき、その後、興味ある団体で「体験研修」をしていただき、最後に「体験交流会」でその体験を共有して頂くというプログラムです。

日本社会は未曾有の少子高齢社会に突入しており、高齢者の地域づくりへの参加協力が期待されています。定年退職後のライフスタイルとして NPO への参画を検討して頂く機会になることを願っています。

2. 2011 年度事業企画概要

企画は、4つのステップから構成しました。

過去3回は、NPO 現場見学を先行させる企画でしたが、「まず最初に基礎知識学習をして欲しい」との研修参加者からの要望を受けて、2011 年度は、「NPO 基礎講座」と「DECO スクールに出展している NPO と交流する企画」を最初に持ってきました。

そして、ステップ2「NPO 現場見学バスツアー」、ステップ3「NPO 現場体験」、ステップ4「体験交流会」という順番で実施しました。

内容	日時・会場・参加者数等
ステップ1「基礎講座」と「NPO との交流」 NPO に関する基礎知識の学習と、「DECO スクール」で相談コーナーを開設し、NPO との交流を促進する。	2010 年 6 月 26 日 (日) (10:00~16:30/本社 5 号館・DECO スクール) ■「NPO 基礎講座」(10:10~12:00/2F 会議室) 参加者 30 名。 ■「NPO 紹介交流促進と相談コーナー」(10:00~16:30/) 開設。相談参加者 9 名。受入可能 NPO は 36 団体が登録。
ステップ2「NPO 現場見学バスツアー」 刈谷地域 (21 日) と知多地域 (28 日) の NPO 各 4 団体をバスツアーで訪問見学。	第 1 回: 2011 年 7 月 21 日 (木) 9:15~16:00 第 2 回: 2010 年 7 月 28 日 (木) 9:15~16:00 【刈谷】刈谷市民ボランティア活動支援センター、パンドラの会、アジア車いす交流センター、刈谷おもちや病院。21 名参加。 【知多】知多市市民活動センター (地域福祉サポートちた)、ゆいの会、愛光園ひかりさとのぞみの家、ネットワーク大府。11 名参加。
ステップ3「体験研修」 NPO 等で活動体験。1 人 5 日以上体験を目標。	2011 年 8 月から 12 月の 5 ケ月間、NPO で実施。DECO スクールとバスツアーで知り合った団体を中心に研修体験をコーディネート。
ステップ4「体験の報告会」 ステップ3で体験した経験を発表交流し全体で共有。	2012 年 2 月 15 日 (日) 10:00~12:00 (本社 5 号館 MR205)。申込 9 名、参加者 8 名。

3. 事業実施の経過と概要

2011年6月下旬に、ステップ1の企画内容を中心にした「受講生募集の案内チラシ（ステップ1からステップ4まで希望聴取）」を配布しました。

ステップ2以下の企画への具体的な案内と参加者募集は、その都度実施しました。バスツアーは刈谷地区（4団体・6/21実施）と知多地区（4団体・6/28実施）に分けて実施、NPO現場体験は1人5日間以上を目標に8月から12月の5ヶ月間実施、2012年2月5日に体験を発表し経験を共有する報告会を実施しました。

3-1 ステップ1「NPO基礎講座&NPOと交流」

開催日時	2011年6月26日(日)10:00～16:30
会場	(株)デンソー本社5号館にて、DECOスクール開催に合わせて実施。 基礎講座（206ab会議室）、交流・相談コーナー（
講師	大西光夫 NPO法人ボランタリーネイバーズ理事長
参加者	研修参加者30名、事務局3名、ネイバーズ3名
日程	10:00～16:30 DECOスクール会場で「相談コーナー」開設 10:10～12:00 NPO基礎講座

3-1-1 「NPO基礎講座」

講師：大西光夫 NPO法人ボランタリーネイバーズ理事長

- ・NPOインターンシップ事業のオリエンテーションの役割を兼ねて開催。
- ・特に、同時開催されているDECOスクールに出展している団体で現場体験受け入れを承諾した団体とのマッチング方法を説明し、積極的な交流を促した。
- ・基礎講座の内容は、①時代背景（高齢化社会、環境問題）、②NPOとは何か、NPO法人とは何か、③愛知県のNPO法人の現状、④日米のNPO・ボランティア実態の比較、④実際のNPO活動事例の紹介（NPO法人生活バス四日市）など。



3-1-2 「NPO と交流」－DECO スクールに参加し、NPO と交流。

・10:00 から 16:30 まで、DECO スクールの一角に「相談コーナー」を開設し、研修者の希望や質問、相談に対応した。

・相談コーナーに訪れた方は9名でした。



3-2 NPO 活動を見学。バスツアー



3-2-1 刈谷地区バスツアー

訪問団体（連絡先・代表）

■刈谷市民ボランティア活動支援センター（NPO 法人 NPO 愛知ネットが運営）

刈谷市寿町 1-409 電話 0566-62-8231 所長：牧野清光

URL <http://www.katch.ne.jp/~kcv109box/>

NPO 愛知ネット URL <http://www.npo-aichi.or.jp/content/index.php>

■NPO 法人パンドラの会

刈谷市築地町 1-5-4 電話 0566-25-3012 代表：岡部芙美子

URL <http://www.npo-pandora.com/>

■NPO 法人アジア車いす交流センター

知刈谷市司町 1-2 電話 0562-32-5906 代表：榎田勝利

URL <http://www.wafca.jp/>

■NPO 法人刈谷おもちゃ病院

刈谷市神田町 3-47-1 電話 0562-33-1631 代表：石川義雄

URL <http://kariya-omocha.jp/>

日程

9:15 本社正門前出発

- 9:30 ~ 10:30 刈谷市民ボランティア活動センター
- 10:45 ~ 12:45 パンドラの会
- 13:00 ~ 14:15 アジア車いす交流センター
- 14:30 ~ 15:45 刈谷おもちゃ病院

16:00 本社正門前着・解散

①刈谷市民ボランティア活動支援センター（NPO法人NPO愛知ネットが運営）

所在地	刈谷市寿町 1-409
団体・活動概要	<p>刈谷市民ボランティア活動支援センターは、市民の活動を支援する拠点施設として、2003年に設置されました。広域的な情報・人材交流ネットワークの拠点となり、市民と市民ボランティア活動団体、企業、行政の協働、連携の役割を担っています。</p> <p>センターでは、市民ボランティア活動に関する様々な情報の提供、活動団体相互の交流と連携の促進や市民ボランティア活動団体の自立化を支援しています。</p> <p>センターは、特定非営利活動法人NPO愛知ネットが市の委託を受けて運営しています。</p> <p>フリースペース、交流スペース、作業スペース、情報スペース、ロッカー、メールボックスなどが設置されています。</p> <p>利用方法、センターに登録が必要で、刈谷市内で市民ボランティア活動を行っている（市内に住所や事務所、勤務先・通学先があること）個人や団体、又はこれから行おうとする方が登録できます。まあ、センターには、常駐スタッフがおられて、様々な相談に応じています。</p>

NPO法人NPO愛知ネット

代表 天野竹行理事長

所在地	安城市東栄町 1-7-22 内藤ビル 2F
団体及び事業概要	<p>1999年4月にNPO愛知ネットとして設立、2000年1月にNPO法人認証を受けた。</p> <p>災害救援活動、社会教育活動、まちづくり支援活動、市民活動支援活動（中間支援）などを活動の柱としている。</p> <p>現在、刈谷市民ボランティア活動支援センターのほか、安城市民活動センター、豊橋市民センター、大府市民活動センター、碧南市ボランティアサポートプラザ、愛知県青年の家などの管理運営を行っているほか、東日本大震災の支援救援活動に現地にスタッフを派遣するなどして、取り組んでいる。</p>



②NPO法人パンドラの会

所在地	刈谷市築地町1丁目5番地4
団体概要	<p>1996年、障がい者の子を持つ母親たちが、我が子が将来安心して働ける場を自分たちで作ろうと始まった団体で、「障がい者が何不自由なく、自立して生活できる社会を作りたい!」との思いで、今年で設立して16年になります。</p> <p>97年に手づくりケーキ・クッキー作りを開始し、刈谷市内のイベントや学校のバザーなどで販売開始し、2001年にNPO法人として認証。デンソーも生協での販売やはあとふる基金などでの支援を実施している。</p> <p>この16年の間に大きく成長し、2010年度の決算で1億5千万円を越え、今では、「おかし工房パンドラ」、「おいしい野菜の料理店たか倉」、「就労移行支援事業所『S&J パンドラ』」、「自然派手作りクレイ石けんのお店COCOTI」の4つの事業所を跨ぐ、総勢55名の大所帯となっています。</p> <p>代表の岡部さんは、「努力する気持ち」「あきらめない気持ち」が大事だと指摘され、これからも、障害福祉のパイオニアとして活動していきます!、と宣言されています。</p>
備考	スタッフ46名(うち障がい者23名)、訓練生9名、理事10名、税理士1名、社会保険労務士1名、正会員80名、賛助会員198名、運営会員18名。

【なぜこの団体を選んだか】

心や身体に障がいを持つ方への支援活動は、多くの場合、親たちの活動から始まります。社会的制度が充実していないがゆえに、当事者が声をあげ、活動を作っていくしかありませんが、パンドラの会はリーダーの岡部さんの情熱と実行力によって、障がいを持った方々の働く場づくり、生活の場づくりのモデルとして、愛知県だけでなく全国でも知られるようになりました。NPOの特徴の一つは、リーダーが示す「熱い心」です。デンソー本社のある刈谷市で活動しておられることもあって、最初の一步を踏み出す活動の場として推薦しました。



③NPO法人アジア車いす交流センター

所在地	刈谷市司町 1-2 ふれあいプラザゆうきそう内
活動目的	日本及びアジアの障害者に対して、車いすの普及活動を通じて、障害者が社会で自立できる環境づくりを行うと共に、スポーツ、教育分野における支援、交流を通じて、バリアフリー社会の実現に寄与し、社会全体の利益に貢献することを目的としています。
活動概要	アジアをもっと身近に感じてもらうことも目的としており、現在は、タイを中心に活動を展開、障がい者が自立できるための支援として、障がい者が作った車いすを購入し、その車いすを障がい者に寄贈するという活動等を行っている。 刈谷事務所には、修理工場機能を持ち、故障したり、古くなった車いすの修理などを技術スキルを持ったデンソーOBが行っている。 2010年度の事業規模（決算）はおよそ4000万円。
備考	スタッフ5名（常勤3名、非常勤2名）、ボランティア7名、利用会員およそ1400名。

【なぜこの団体を選んだか】

心や身体に障がいを持つ方への支援活動は、多くの場合、親たちの活動から始まります。社会的制度が充実していないがゆえに、当事者が声をあげ、活動を作っていくしかありませんが、パンドラの会はリーダーの岡部さんの情熱と実行力によって、障がいを持った方々の働く場づくり、生活の場づくりのモデルとして、愛知県だけでなく全国でも知られるようになりました。デンソー本社のある刈谷市で活動しておられることもあって、最初の一步を踏み出す活動の場として推薦しました。



④NPO法人刈谷おもちゃ病院

所在地	刈谷市神田町3丁目47番地1 交通児童遊園管理棟2F NPO法人の事務所は、刈谷市半城土町庚申塚136
活動目的	ものづくりに対する関心離れや、壊れたら捨てるという使い捨ての社会に歯止めをかけるため、地域の子どもに対して、おもちゃ修理や工作教室及び世代間の交流などに関する事業を推進することで、ものづくりの楽しみ・科学に対する興味・ものを大切にする心・思いやりの心を醸成し、次代を担う子ども達の健全育成と科学技術振興及び環境保全の分野で、未来ある社会の実現に貢献することを目的としています。
活動概要	愛着のあるおもちゃを修理して使ってもらおうと、デンソーの定年退職者の同好会がもとになって、現役時代に培ったスキルを活かすボランティアグループとして発足した。 平成14年10月、刈谷市内の保育園9園のおもちゃの巡回修理を始め、今では三河地方だけでなく、他府県からの引き合いもあるほどになっている。事務所（病院）だけでなく、保育園や幼稚園での出張修理も頻繁に実施している。また、工作教室を夏休みに行ったり、依頼があれば、学校や地域で出前講座を開催している。 事務所や高額の修理工具・機械は刈谷市が援助しており、企業OBのボランティア精神と行政支援がマッチングした協働事例として知られている。
備考	スタッフは全員ボランティアで30名。定款上の社員10名、賛助会員3名、利用会員35名。

【なぜこの団体を選んだか】

現役時代に培った技能・技術を活かしてストレートに貢献できる取り組みとして、またデンソーOBの先輩たちが作った活動なので、最初の一步として参加しやすいことから選択しました。おもちゃの修理をして、子供たちの笑顔をふやし、夏休み親子教室では今年は何を作ろうかとみんなで考え、ドクターの個性を発揮して準備をする。そして、子供たちからの「ありがとう」の言葉に、みんな生き生きと活動しているとのこと。



3-2-2 知多地区バスツアー

訪問団体（連絡先・代表）

■知多市市民活動センター（NPO法人地域福祉サポートちたが運営）

知多市緑町 12-1 電話 0562-33-1631 代表：岡本一美

知多市市民活動センター URL

<http://www.city.chita.aichi.jp/ikiiki-chita/graphic/a2/193shimin/main.htm>

NPO法人地域福祉サポートちたURL

<http://www.cfsc.npo-jp.net/>

■NPO法人ゆいの会・昼食

知多市新知字西屋敷 21 電話 0562-32-5906 代表：鈴木信重

URL <http://www.yui.npo-jp.net/>

■障がい者支援施設（社福）愛光園ひかりのさとのぞみの家

東浦町大字緒川字東米田 22 電話 0562-83-9938 施設長：加藤俊一

愛光園 <http://www.aikouen.jp/>

愛光園ひかりのさとのぞみの家 <http://www.aikouen.jp/pg268.html>

■NPO法人ネットワーク大府

大府市森岡町 1-30 電話 0562-44-3735 代表：矢澤久子

ネットワーク大府 <http://www.horae.dti.ne.jp/~npo/>

日程

9:15 本社正門前出発

- 9:45 ~ 10:45 知多市市民活動センター
- 11:00~12:30 ゆいの会
- 13:00 ~14:00 愛光園のぞみの家
- 14:30~15:45 ネットワーク大府

16:00 本社正門前着・解散

*知多地区の訪問団体・施設は、2010年度の訪問見学団体と同じ団体・施設のため、団体詳細説明は省略します。2010年度事業報告（下記、PDF）を参照ください。

http://www.vns.or.jp/denso/2010_jigyo_hokoku.pdf

【①知多市市民活動センター（NPO法人地域福祉サポートちた）】

【なぜこの施設、団体を選んだか】

NPO法人地域福祉サポートちたは、知多半島を中心にNPO約50団体で作っている協議体型のNPO法人で中間支援組織です。

中間支援組織とは、現場で活動するNPOに対して、情報提供、人材研修、交流・ネットワーク化や制度政策を提言するなどの支援活動を行う組織です。

知多地域で、「地域たすけあい活動」が始まったのは1990年代初頭で、その後燎原の火のごとく知多全域に広がっていきました。知多地域は、全国でも先進地域として有名です。活動のノウハウ、やり方をオープンにしてみんなで共有していったことが、互いを高め合うことになり、先進地となった大きな一因です。

1998年のNPO法施行や2000年の介護保険制度導入をきっかけに、99年11月にNPO法人として設立され、高齢者支援の活動だけでなく障害支援や子育て支援などの活動を共有し、互いの学び合いを深め、個々の団体が飛躍的に成長拡大しました。

知多市市民活動センターは知多市の様々な市民活動を応援する総合拠点で、NPOサポートセンター、社会福祉協議会総合ボランティアセンター、NPO法人知多市民大学の事務局があり、また、2階には知多市市民活動推進課の事務室があります。

NPOと行政、社会福祉協議会が同居し、協働している事例として注目されています。



②【NPO法人ゆいの会】

【なぜ、この団体を選んだか】

1991年に、助けあい・学びあい・育ちあい「ともに生きる地域社会を」を理念として、施設ボランティアや在宅サービスを開始、その有償サービス部門として「ゆいの会」が発足しました。99年にNPO法人として設立し、2000年介護保険制度の発足とともに介護事業スタートさせ、訪問介護介助や配食サービス等を開始されますが、さをり織り、牛乳パックリサイクル、パソコン教室、陶芸教室、アーツコーレ（子ども館）、障害者・児の居宅介護事業など、幅広くまちづくり活動されているところが特徴です。

また、閉鎖された「知多木綿の織物工場」を活用しておられるところもユニークです。

“ゆい”とは、“結い”の意味で、農村などで、労働力を交換し合った相互扶助組織のことで、活動に参画する女性の自立のため、また活動の継続のため、有償の活動として開始され、社会にアピールしてこられたことも特徴の一つです。助ける方も助けられる方も、いつかは自分が同じ身になるということで、どちらも会員になっています。

これからの課題は人を育てることだと、人材育成に力を注いでおられます。



③【(社福) 愛光園ひかりのさとのぞみの家】

【なぜこの施設、団体を選んだか】

1965年4月重度障害児の為にプレハブ作りの通園施設を開設され、66年に財団法人愛光園を設立、73年に社会福祉法人として認可を受け、78年に身体障害者療護施設「ひかりのさとのぞみの家」を開設、以降、入所施設や知的障害者支援や高齢者支援事業などを展開してこられました。

50年近くの歴史を持ち、「誰もが人間としての尊厳が保たれ、安心して共に生きる社会をめざし」「単なる収容施設ではなく、その人（人間）にふさわしい住居や設備、生き方を考えることが出来る場所、各自の自己実現ができる場所」をめざして活動されており、しっかりした理念とその実現を実行されており全国でも著名な団体です。

一方で、施設が古くなり改築が必要になっていたり、入居者も歳をとりそうしたことに対応した施設づくりやサービス作りが必要になっているという課題を抱えておられます。

「ボランティア無くしてはここまでやって来られなかった」と指摘されるように、様々な方の協力で支えられ、デンソーでも「DENSOはあとふる基金」を使ってドラム式の乾燥洗濯機などを寄贈やボランティアの派遣などで支援しています。



④【NPO法人ネットワーク大府】

【なぜこの施設、団体を選んだか】

ネットワーク大府は、1992年に、「大府市地域福祉を考える会 ネットワーク大府」として設立されました。愛知県の介護保険事業等に取り組む福祉系NPO法人は、事業規模が大きいことが特徴ですが、特に、知多地域に集中しており、ネットワーク大府は2010年度決算が3億円を越え、県下で1位2位を争う位置にあります。

こうした実績・実力の上に、平成24年、「社会福祉法人ネットワークみやび」を設立し、4月1日から、地域密着型介護老人施設として、特別養護老人ホームもりおか、グループホームうえまつ、ショートステイを開始されます。

住み慣れたところで安心して暮らせるまちづくり、ちょっとした支援で地域社会のなかで人生をまっとうできるための、新しい市民参加の互助システムづくりをめざしています。



3-3 ステップ3「現場体験」

■「NPO基礎講座」、「DECOスクールでの相談コーナー、NPOとの交流」そして、刈谷と知多のNPO8団体を見学し、こうした団体のなかから自分にあった団体を選び、8月から12月までの間に一人5日間程度のNPO現場体験に取り組んだ。

・居住地でのNPO活動への参画希望が多いことから、居住地の西尾市市民活動サポートセンターを訪問紹介し、センタースタッフとの関係づくりを行った。

・体験に関心を持たれた方は当初16名あったが、実際に体験された方が7名で、市民活動センターへ訪問（大西同行）された方が1名、情報入手出来て準備が整ったという方が1名、意欲はあるが実践の一步は踏み出せないままだった方が7名だった。

・しかし一方で、9/26～10/1の6日間、事前学習、事前計画、実習日誌、感想評価、そして、研修終了時におけるNPOスタッフとの意見交換、インターンシップ事業への提言などを40頁近くにわたってレポートして下さった方がおられました。こうした方のご意見を参考に今後の研修を充実させることが必要かと思えます。

■2008年度から本年度まで4年間の「研修参加者のその後」をアンケート調査した。

・定年退職された方とは連絡がとれなかったが、NPO団体側にもアンケート調査した結果、下記の報告があった。

・ネットワーク大府において、平成24年4月から開設する（社福）ネットワークみやびの正社員として就業される方がおられること。

・刈谷市民活動ボランティアセンターでは、3名の方が会員登録され、月に数度活動しておられたこと。（1名の方は急死され、1名の方は現在あまり参加されていない）

・安城市にある環境保護団体「郷東川をきれいにする会」に参加され、定例のゴミ拾い活動や水質調査活動に参加されていること。

・幸田町国際交流協会で継続的にイベントなどのお手伝いに参加しておられる方もおられます。

・研修参加者で、この「その後について」返信があったのが5名で、多くの方からは返信がなかった。研修終了後のコミュニケーションについて、大いに工夫が必要だと思われる。

3-4 ステップ4「報告交流会」

日時：2012年2月5日（日）10:00～12:00／デンソー本社5号館206abにて開催。
研修生8名参加（1名当日欠席）。デンソー事務局3名、ボランティアネイバーズ2名。

■主催あいさつ：川口清司・社会貢献推進室室長

「定年退職後の生活スタイルの一つとしてNPO活動に参加、働くことを検討して頂くために本研修事業を行っている。ぜひ活用して下さい」とご挨拶があった。

■進行提起：大西光夫

・「現場体験への参加者を増やすため、体験日程を決めて参加募集することを検討している。意見が欲しい。」「意見交換の口火役として、地域福祉サポートちた等NPO3団体において6日間の体験活動された片山さんから、感想、評価を話して頂きたい。」と提起。



■片山さんの現場体験感想・NPO評価

・NPO側は経験豊富で元気なシニア層に期待しているが、「男性」について、社会性に乏しいという指摘があった。納得する点がある。会社の立場（上下関係的な人間関係）をひきずらないことが大事ではないかと思う。

・デンソー社員が備えている経験やスキルを活かすことは可能で、地域たすけあい、ささえあいに参画できて、自分の居場所づくりにできると感じた。



■「意見交換会」で出された意見

- ・自発性が大事、まずは一度やってみること、最初のきっかけづくりが重要だと思う。
- ・自分の役割や居場所を見つけることがポイントだと思う。
- ・単発イベントなど気楽に関わるものや、経験やスキルを活かしたことは関わりやすい、そうしたところから始めるとよい。
- ・何歳から始めるか、どのように関わるかなどは、人により様々なので、自分にあった方法をみつけることが大事だ。
- ・情報に関して、継続的恒常的、また丁寧に情報提供や交換できる仕組みができるとよい。
- ・再雇用延長があるとしても50歳頃からこうした体験をして早すぎることは無いと思う。

■まとめ：大西光夫

・研修の活かし方や現場体験について、研修を受けられた方や、定年退職後の方とのパイプを深くし、意見や感想を頂き、よりよい研修につなげたい。

4. まとめ

- ・NPOインターンシップも2008年度以降これで4回を重ねたが、基礎講座や現場見学バスツアーへの関心は高く一定数参加されるが、NPO現場体験への参加者が広がらない、という課題を抱えている。
- ・ホームページを制作し、情報伝達の仕組みを作ったが、その効果は表れていないようである。
- ・しかし、定年後のライフスタイルやNPO・ボランティア活動への関心は高く、情報を得たいという意欲も感じる。
- ・デンソーには、ハートフルクラブという社員のボランティア活動を促進する仕組みがあり、そうした仕組みやトヨタグループで作っているボランティア情報提供の仕組み（スマイルゆうネット）などを活かした研修方法も検討することも一案である。
- ・今年度まとめの交流会で、現場体験について、主催側で、日程・企画を決めて、参加募集する方法について、アンケートをとったが、多くの方が、「参加しやすい」と答えておられたので、そうした方法も検討の余地がある。
- ・また、事業の目的が、定年退職後におけるNPO活動等への参加にあるので、定年退職後の方々との連携方法も検討すべきかと思われる。そうすることで、参加者にとって、具体的な行動イメージをつかむことができると思われる。

以上